

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	その他飲食の動向を把握できる者	・忘年会シーズンとなり、例年以上に客の動きが出てくる見込みである。	
		観光型ホテル（営業担当）	・今月中旬ごろから高齢者団体の動きが発生しており、地域の祭りや運動会などに伴う飲食の動きや修学旅行、インパウンド等の動きがある。	
		ゴルフ場（従業員）	・ツアー客の予約が前年より5～10%伸びている。	
	変わらない	商店街（代表者）	・主な客層が高齢者であるため、医療費の問題等により、収入増が見込めないため、財布のひもが固くなる。	
		百貨店（営業担当）	・衣料は秋物のシーズンとなり、正価販売品の売上は増える。一方、バーゲン品の売上は減少する。購入意欲は価格主体から感性、商品重視の購入傾向が一段と強まっており、厳しい状況である。	
		スーパー（店長）	・米の風評被害により、食の安全に対する不安感が増し、購買意欲がますます低下する。	
		コンビニ（エリア担当・店長）	・生活必需品の価格が下がらないため、今後も期待できない。	
		衣料品専門店（店員）	・ここ数年、冬のヒットアイテムはコートであったが今年は手持ちの物で済ませてしまおうという客が多い。セーターも以前ほどの動きはなく、カットソーで済ませようという客が増えており、売上は低下する。	
		衣料品専門店（店員）	・洋服に金をかける客が減っており、今後も厳しい。	
		乗用車販売店（管理担当）	・ガソリン価格はやや下がってきたが、中古車、新車共に大型車の売行きが悪い。	
		通信会社（業務担当）	・新商品が数機種発売になる見込みだが、高価格設定が予想されており、買い控えで販売数は伸びない。	
		テーマパーク（職員）	・「スポーツ」と「癒し」で戦略を組み立てるが、予約販売数の動きは鈍い。	
		競馬場（職員）	・来場者数の減少が下げ止まっており、今後もこの状況が続く。	
		理容室（経営者）	・祭日でも客の動きがなく、厳しい。	
		美容室（店長）	・来客数、客単価が連日落ちており、景気は良くならない。	
		やや悪くなる	一般小売店〔青果〕（店長）	・客の購買意欲は低下しており、今後も買い控えは続く。
			一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・外販の注文、来客数の増加が見込める時期であるが、物価高騰により、単価を下げる必要があり、今後もこの状況が続く。
	百貨店（営業担当）		・以前より今秋冬の苦戦は予想されていたが、客の動きをみていると、その予想を更に下回る結果となる。	
	百貨店（業務担当）		・客の支出に対する慎重さは日ごとに増しており、今後も厳しい。	
	スーパー（店長）		・食品の安全性に関する問題等、客の消費マインドは低い。特に中国産品の販売は不振を極めており、今後も悪くなる。	
スーパー（店長）	・事故米の問題等により、客がかなりシビアになっている。今後もこの状況が続く。			
スーパー（店長）	・客は購買に関して非常にシビアになっている。特に大切な物や自分の欲しい物に対してかなり慎重になっており、今後も厳しい。			
スーパー（店長）	・衣料品を中心に処分品が売れなくなった。適時適価の販売やニーズをつかんだセール以外は衝動買いを含め弱含みであり、今後、所得の上昇や諸問題の解決策が見いだせなければ、今後も悪くなる。			
スーパー（総務担当）	・客単価の落ち込みが食品にまで影響しており、不景気感が今後も継続する。			
スーパー（総務担当）	・石油製品を原材料とする諸物価の高騰、食料品の物価の高騰がまだまだ続くため、消費購買力そのものが落ちてくる。			
スーパー（企画担当）	・各商品の値上げに加え、事故米の問題等、食の安全性に対する不安により、買い控えに拍車がかかる。今後も苦戦することが懸念される。			
コンビニ（エリア担当）	・これからも物価上昇や給与所得の低下等により、売上の増加を望むことは難しい。			
コンビニ（エリア担当・店長）	・タバコの売上を増加させていたタスポ導入に伴う効果も薄まる。小麦粉を使った食品原価が上がるため、それに関する客の買い控えが出る。			

		家電量販店（店員）	・耐久消費財である家電については買い控えが発生している。これは今後も続く。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・焼酎がメインであるが、事故米や偽装商品等の問題により、客の不信任感が募っており、今後も厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・総選挙期間中の予約数の減少が例年以上に大きい。
		都市型ホテル（副支配人）	・予約状況は大幅な増加はなく、動きが鈍い。今後もこの状況が続く。
		通信会社（企画担当）	・光回線市場が飽和しており、月額基本料値下げなどがない限り、大幅な市場拡大は見込みにくい。
	悪くなる	商店街（代表者）	・婦人衣料品の動きが悪くなっており、今後も厳しい。
		商店街（代表者）	・原油高、原材料高に加え、個人所得が上がらないなか、客の購買意欲は低く、厳しい。
		百貨店（売場担当）	・今後、商圏内に大型店がオープンするため、ますます厳しくなる。また、消費者の購買意欲も低下しており、客単価が若干落ちてきている。紳士服の売上も下がっており、景気は良くない。
		百貨店（営業担当）	・建設業関係を中心に富裕層と言われた個人企業経営者の消費が非常に冷え込んでいる。この傾向は更に強まると思われるので、小売業にとっては今後ますます厳しい状況になる。
		コンビニ（経営者）	・コンビニは景気が悪くなくても来客が見込まれる業態であるが、例年になく消費者マインドが低下しており、必要な物でも購買しないという傾向になる。
		衣料品専門店（店長）	・購買意欲はあるが、実際はなかなか買えないと言う客が増えている。今後も厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（店長）	・消費者の買い控えがますます進み、今後も厳しい。
		衣料品専門店（総務担当）	・来客数の減少に歯止めがかからず、今後も増加の期待が持てない。
		家電量販店（店長）	・原油高、物価高が続いているため、この先も買い控えが続く、良くはならない。
		乗用車販売店（従業員）	・車の部品の利上げが減ってきており、厳しい。
		高級レストラン（経営者）	・予約数も少なく、接待等も減っている。10月に入ると忘年会の予約が入ってくるが、弱含みである。
		高級レストラン（専務）	・来客数が年々減っており、周辺店舗を見ても空き店舗が増えており、今後も厳しい状況が続く。
企業動向	良くなる	-	-
関連	やや良くなる		
	変わらない	農林水産業（経営者）	・秋の行楽シーズンに向けて一般食品が大いに期待できる。また、加工食品メーカー向け商品も期待できる。ただ、飼料の値上がり等で生産意欲は落ち、原料不足が大きな負担となっており、チャンスロスが懸念される。
		食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数は前年と比較して増加しているが、客単価は減少傾向である。より低価格の商品の売行きが良くなっており、これが高価格商品の売上減少を補っている。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・国内はもちろんのこと輸出及び海外生産も悪くなっており、受注が減少している。今後もこの傾向が続く。
		輸送業（従業員）	・荷主の認識の甘さにより、消費者の食品安全に対する不安が高まり、受注が減っている。今後もこの状況が続く。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（取締役）	・製造メーカーに関しては資材の高騰が響いている。中小企業の倒産を含めて今後はドル相場の動向等も含め予測がつかず、結果的に少し悪くなる。
		鉄鋼業（経営者）	・マンション需要の減退のみならず、景気減速による国内設備投資の減少も懸念される。消費者マインドの低迷から建材需要の回復は望めない。
		建設業（総務担当）	・県庁所在地の中心部にあったホテルが取り壊されたが、駐車場になる予定である。建物は当分建つめどはなく、厳しい。
		通信業（職員）	・数か月のうちで大型の受注があり、一時的に受注額は増えたが、今後はその反動で低調に推移する。
		金融業	・経営業績が悪化する取引先が増加している。
	悪くなる	繊維工業（営業担当）	・原油高と最低賃金の上昇が地方の企業経営を更に圧迫する。倒産する企業が増える。
		金属製品製造業（企画担当）	・取引先の設備投資延期等で納期が来年以降に延びる受注案件が増えており、厳しい状況が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品関連特に半導体関連、コネクタ関連等金型業界そのものの先行きが不透明である。受注が決定しても短納期であり、売上の向上は見込めず、状況は厳しい。

		建設業（従業員）	・建設業界の先行きは不透明であり、特に土木工事は官公庁の見積も少ない状況で厳しい。民間でも競合会社が多く、採算が合わない受注が増えている。
		金融業（得意先担当）	・発注量が減っており、各取引先とも資金繰りに苦慮している。
		広告代理店（従業員）	・9月の折込枚数は先月より更に悪くなった。前年比も2割近く減少しており、厳しい状況が続いている。
		広告代理店（従業員）	・売上が伸びないなか予算が削られており、今後の売上増も期待できない。
		その他サービス業	・市町村の建設・福祉関係等の予算が削減されることにより、請負業者の過当競争、入札金額のダンピングが進んでいる。結果として受注金額が実績となり、次回の予算が低価格となる悪循環が続く。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	職業安定所（職員）	・2008年3月以降続いた新規求人の前年比マイナスの傾向は、7月にプラスとなったものの依然マイナス傾向が続いており、今後も厳しい。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・年末の単発、短期の人材需要は出てくるが、企業も前年より業績が悪い所が多いため、派遣を利用する企業が減る。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年末に向け、企業も人件費を中心に更にコスト削減を進めることが予想される。
		職業安定所（職員）	・引き続き新規の求人数が減少傾向にある。
		職業安定所（職員）	・雇用調整を実施する企業が増えてくる。
		民間職業紹介機関（社員）	・9月末は契約更新が増加する時期であるが、更新をしない案件が増加している。販売促進、営業関連の短期・単発案件も一段落している。
	悪くなる	学校〔大学〕（就職担当者）	・景気後退や金融不安などの材料が多く、採用意欲の減退は避けられない。
		民間職業紹介機関（支店長）	・例年であれば、年末年始、クリスマス商戦に向けての商談が始まる時期であるが、今年は全くない。また一時的・臨時的人材の採用についても極めて消極的である。厳選された正社員を数人採用するのみという企業が増加傾向である。